

STAGE+を楽しむ(71)(HP 掲載)  
—フライブルク・バロック・オーケストラ—

1. 始めに

前報(70)に引き続き、STAGE+のフライブルク・バロック・オーケストラのクリスマス音楽の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、フライブルク・バロック・オーケストラのクリスマス音楽の演奏を選びました。

フライブルク・バロック・オーケストラがクリスマス音楽を演奏  
ボニー、ゲルネとの共演

収録日: 1999年1月1日

フライブルク・バロック・オーケストラは、1985年の結成以来、屈指の古楽アンサンブルとして高い評価を得ています。1999年のクリスマス前に収録されたこの映像では、バッハの「クリスマス・オラトリオ」やヘンデルの《メサイア》のほか、クリスマスとは必ずしも関係のない曲も含めて、祝祭にふさわしいプログラムを演奏しています。収録が行われたのは、フライブルクの大聖堂。バッハの管弦楽曲第3番〈アリア〉等の器楽曲のほか、ソプラノのバーバラ・ボニーとバリトンのマティアス・ゲルネを迎え、声楽曲も演奏されています。

ソリスト:

マティアス・ゲルネ (バリトン)、バーバラ・ボニー (ソプラノ)

演奏:

フライブルク大聖堂少年合唱団、フライブルク・バロック・オーケストラ、ジャーマン・ブラス、フライブルク・シュピールライト

曲目:

ヨハン・セバスティアン・バッハ クリスマス・オラトリオ BWV 248

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト ミサ曲ハ短調 K. 427 《大ミサ曲》

バーバラ・ボニー(ソプラノ)

ゴットフリート・ファン・デア・ゴルツ(ヴァイオリン)

ヨハン・セバスティアン・バッハ クリスマス・オラトリオ BWV 248

バーバラ・ボニー(ソプラノ)

マティアス・ゲルネ(バリトン)

ゴットフリート・ファン・デア・ゴルツ(ヴァイオリン)

ヨハン・セバスティアン・バッハ クリスマス・オラトリオ BWV 248

マティアス・ゲルネ(バリトン)

ゴットフリート・ファン・デア・ゴルツ(ヴァイオリン)

ジョージ・フレデリック・ヘンデル 《メサイア》 HWV 56

バーバラ・ボニー(ソプラノ)

ヨハン・セバスティアン・バッハ 管弦楽組曲第3番ニ長調 BWV 1068



### 3. 試聴の経過

フライブルク・バロック・オーケストラの他、ジャーマン・ブラス、フライブルク・シュピールライトなどが加わり、バリトンのマティアス・ゲルネ、ソプラノのバーバラ・ボニー、フライブルク大聖堂少年合唱団などの独唱や合唱もあります。このうちフライブルク・バロック・オーケストラは一度演奏会で聴いています。収録は、クリスマスの飾り付けがなされたフライブルクの大聖堂で、無観客の収録です。クリスマス・オラトリオは、ジャーマン・ブラスの金管演奏に編曲されたりして、抜粋のように演奏されます。

なお、再生途中で、受信が突如できなくなり、STAGE+に問い合わせしている間に復旧しました。

ジャーマン・ブラスは、輝かしい金管の響きが大聖堂に柔らかく響きわたっています。

フライブルク・バロック・オーケストラは、オリジナル楽器を使用しており、1999年の収録ですが、オリジナル楽器の音は鮮明で、柔らかく優雅に奏でられています。

バリトンのマティアス・ゲルネやソプラノのバーバラ・ボニーは、鮮明な歌唱でありながら、大聖堂での響きもよく分かります。

クリスマス・オラトリオは、前報(7)のガーディナー指揮イングリッシュバロックソロイストの演奏も聴いていますが、フライブルク・バロック・オーケストラの方

は、ジャーマン・ブラスの金管アンサンブルへの編曲があったりして斬新な試みが入っています。

モーツァルトの大ミサ曲のバーバラ・ボニーの歌唱は、オリジナル楽器のアンサンブルをバックにしっとりと聴かせます。同じく、ヘンデルのメサイアのバーバラ・ボニーの歌唱は、アナログ時代のシュワルツ・コップとは違った現代的な歌唱になっています。

バッハの管弦楽組曲第3番は、ジャーマン・ブラスによるG線上のアリアの金管アンサンブルへの編曲でした。









#### 4. まとめ

以上の STAGE+配信は、追加の LAN iSilencer の効果も加わって、大聖堂の荘厳な装飾の映像をバックに、斬新な編曲のクリスマス・オラトリオとその他のバッハやモーツァルトやヘンデルの曲の表情を、オリジナル楽器の演奏、金管アンサンブルの演奏や歌唱により把握できました。

以上